

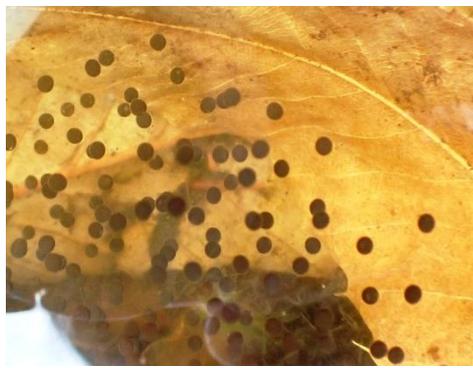
愛川ふれあいの村 今月の風景

2025年3月 自然のたより

年度末にあたる3月、だんだんと利用者も増えてきている中、数回の降雪予報がありました。1、2回目は少し降りましたが、利用や交通の便には全く影響がありませんでした。しかし、3回目には道路にしっかり着雪し、運転や公共交通機関へも影響が出ていました。そんな3月も、春分の日を境にいきなり暖かくなり、一気に桜が開花しました。待ち望んだ春の陽気とともに、新しい気持ちで新年度を迎えたいですね。(大瀧)



枝が三つに分かれるミツマタ



ヤマアカガエル例年より遅い産卵



ノスリが飛んできた



青空にハクモクレン



カントウタンポポ



一番に咲くアオイスミレ



樹幹着生フルノコゴケ



モリヤドリカニムシ



フキの花にオオハナアブ



日光浴するアカタテハ



早春のコツバメ



蜜を吸うメジロ



爽やかな声ヤマガラ



シジュウカラ何思う



ヒヨドリ何している

トピックス ★それでも春本番★

早咲きの河津桜の開花は、結局例年よりも3週間ほど遅れました。福島県の会津地方では62年ぶりの記録的な大雪と聞きました。毎年村を訪れる冬鳥の代表、ツグミはほぼ2ヶ月の遅れでやって来ました。群れでやって来るマヒワやアトリは今季一度も姿を見ることはありませんでした。様々なところでいつもと違う季節の移ろいだったように感じられます。出勤の朝は毎日1時間ほど村の中を散策します。毎日が発見の連続で、特に寒い冬から春に移り変わるこの時期はとても素敵な変化を感じられます。でも、いつも歩いているからこそいつもの年と違う変化に気づかれます。人はそうした環境の変化に何とか適応しようと工夫しながら生活できます。しかし生き物たちはどうでしょうか。現在の多くの異変は生き物たちの警告のようにも思われます。四季のある美しい日本を次の世代につなげていく責任が今を生きる私たちにはあります。

2週間遅れましたが今年もウグイスがさえずり始めました。野草園では間もなく春の妖精、片栗が咲き始めます。春本番が村を彩ります。(高梨)



河津桜の花見をする

ツグミ



片栗の芽生え



アトリ



倒木更新

コケ類の中で早春の一時期に胞子体が見られる種類の、シャゴケはマツタケのような芳香性の香りが十分に安らぎをくれる。コケ類は抗菌抗カビ作用がありミソサイヤメジロ、シジウムカラなど野鳥の巣に利用されている。鳥はこのことを知っているのかもしれない。身近な自然からの恩恵をみんな考えてみましょう。(吉田)

生き物 ★カエルの卵塊★

暖かくなり、そろそろかなと野草園のトコ舟をのぞきに行くと、今年もカエルの卵塊を確認することができました。昨年よりトコ舟の数を少し増やしたところ、昨年より卵塊が2つ増え、合計4つ見ることができました。おそらくヤマアカガエルだと思います。ヤマアカガエルの産卵のピークは、2月から3月です。村の中では、昨年度から3月頭頃このトコ舟でのみ観察することができるようになりました。かわせみ棟の前の池ではアズマヒキガエルの卵塊を毎年見ることが出来ます。来年も再来年も春の訪れを告げて来て欲しいものです。(川原)



旬 ★猪の肉★

猪肉は、牡丹肉(ポタンニク)とか、山鯨(ヤマクジラ)と言われ昔から食べられてきた、貴重なお肉です。栄養価も高く、グリコのキャラメルは「一粒で300m走れる」が、猪肉は「猪汁一杯で16里(64km)走れる」と言われたそうです。高たんぱく、低脂肪、亜鉛やビタミン類が豊富です。煮れば煮るほど柔らかくなり、特に脂身はとろけるような絶品です。

最近是人里に降りてきて畑などを荒らす害獣として駆除される事もあります。しかもその猪はジビエとして流通しないので、穴に埋められてしまうことも多いと聞きます。

殺生をしたら食べて供養できないものかと思うところですが、解体する人が少なかったり、そもそも法律で規制があったりするのでご注意ください。(高梨)



来月の見どころ

自然からの恩恵

森林の中を歩くと、様々な光景に出会い驚くことが多い。切り株から小さなコケ類が生え、よく見るとそのコケを温床にして小さいながらも大空に向かって伸びるスギの実生を見かける。

スギ林は、花粉症に悩まされるがその反面雨上がりや花粉のない時期ではフィトンチッド(植物が外敵から身を守る成分)と言う森林の香りが放つ清浄な空気に触れ穏やかな気持ちになる。それは、森林がもたらす癒しの効果でストレスホルモンが減少するから。そして心理的な緊張感が抑制され、内にあった活気が取り戻されるからだと言われている。